

The University of Osaka, September 19 - 21, 2025

JADH 2025

“Crossing the Gap: Rethinking Boundaries between the Humanities and Informatics”

今年9月に大阪大学にて「The 14th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2025)」が開催されます。

場所	日時（日本時間）	
豊中キャンパス	9/19	（プレイベント）
箕面キャンパス	9/20～9/21（メインイベント）	

- 参加登録期間は **9/5** まで
- 阪大の学生は参加費0円

（詳細はウェブサイトを参照）



ホームページ

プレイベント

プレイベントでは、永崎研宣氏（一般財団法人人文情報学研究所／慶應義塾大学）による「人文学のためのテキストデータ構築手法の基本講座」ワークショップを開催します。本ワークショップでは、参加者がご自分のパソコンを持ち込み、TEIガイドラインに従って、研究対象のテキストをリッチな構造化データに仕上げていく手法を手を動かしながらじっくり学べます。

メインイベント

メインイベントのプログラムでは、“Crossing the Gap: Rethinking Boundaries between the Humanities and Informatics”というテーマの下、デジタルヒューマニティーズ(DH)の深化と拡張を示す研究が世界中から集結しました。特に、生成AIによる文学・歴史解釈などの最先端の試みと、TEIやコーパス分析といった緻密な基盤の手法が共存する点が特徴です。扱う対象も、日本の古典籍から現代のゲームやアプリ、ブラジルの都市論、周縁化された人々の記録まで、時代と地域を大きく横断します。

基調講演

基調講演には、計算文学研究（Computational Literary Studies）分野の第一人者、カリナ・ヴァン・ダーレン＝オスカム教授（アムステルダム大学）をお招きします。



「文学の影響と文体の発展」をテーマに、作家間の影響を明らかにする文体分析や、執筆過程そのものを記録したキーストロークログの分析など、刺激的な事例をご紹介します。完成された「作品」だけでなく、創造の「過程」に迫る最先端の研究です。

DHの「今」を映し出す知の最前線にぜひご注目ください！

主催

- 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会

共催

- 大阪大学大学院人文学研究科 人文学林
- 人文情報学研究所
- JSPS科研費 特別推進研究「デジタル研究基盤としての令和の大蔵経の編纂—次世代人文学の研究基盤構築モデルの提示」
- JSPS科研費 学術変革領域研究(A)「歴史資料からの高度情報抽出と解析」
- 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点

後援

- 人文科学とコンピュータ研究会
- アート・ドキュメンテーション学会
- 英語コーパス学会
- デジタルアーカイブ学会
- 情報メディア学会
- 計量言語学会

学会ホームページ: <https://jadh2025.hmt.osaka-u.ac.jp/>
申し込み: <https://www.conftool.net/jadh-2025/>